学 校 だ よ り　3月号

文京区立第一中学校　令和６年３月１５日(金)

未来信じて

校長　田島　佳子

今別れの時　飛び立とう　未来信じて
はずむ　若い力　信じて
この広い　この広い　大空に

（「旅立ちの日に」より抜粋）

世界でも有数な都市として有名な東京都、飛行機で夜、羽田へ着陸するとき、そのきらびやかな光に圧倒されます。近代的でありながら、江戸の情緒も残り大変便利な都会です。日本にいると気がつきませんが、他国に行くと衛生面、利便性、安全性が非常に高いことがわかります。外国に目をうつすと、ヨーロッパ等はほとんど地震もなく何百年も前の古い石造りの町並みが残っています。アメリカには近代的な新しい都市がたくさんあります。東京のように、神社や寺院、木造の建物、近代的な鉄筋コンクリートのビルらが混じっている都市は本当に珍しいのです。世界から見ると東京は奇跡の街といわれています。なぜこのような街ができたのでしょう？

徳川家康が江戸幕府を開いた頃は、辺り一面が湿地でした。土を入れて、土地を整備し堤や橋を作って川も整えました。そして江戸という町ができあがりました。明治に入ると近代化が進み欧米の石造りの建物も増えました。そんな中、大正１２年に関東大震災が起こり、大きな地震と火災で一瞬にして、東京は瓦礫（がれき）の街となりました。もう東京は終わったと誰もが思いました。しかし、当時の日本人はそこから立ち上がったのです。まだまだ建築技術が未熟でありながら、見事に復興したのです。さあこれからだと言うときに、今度は昭和２０年、第二次世界大戦の東京大空襲で東京の下町が廃墟となりました。戦争が終わり、若者が戦地から戻ってきました。日本は再び活気づきます。東京タワーや地震に強いビルがどんどん建つようになりました。大きな試練が東京を襲いましたが、そのたびに当時の人たちの未来を信じる気持ちと若い力で東京は蘇ったのです。地震や戦禍で街がゼロになってしまったから、新しい街をつくることができたのです。大きなマイナスでさえも当時の人たちはプラスに変えたのです。

阪神淡路大震災、熊本地震、東日本大震災、能登半島地震、日本は火山帯であるがゆえに地震からのがれることはできません。壊れてしまって無になったところに、新しいものを作り、進化をさせてきました。日本人の世界に誇れる強さだと私は思います。卒業式の式辞の中で、十三年前の東日本大震災のことに触れる予定でいます。私が皆さんに伝えたいのは、この先、どんなことが起ころうとも、強い気持ちを持ち続けてほしいということです。

未来をつくるのはあなたたちです。

その未来を信じてください。

２年 TGG　３月６日

３年　留学生との交流会３月６日

５組　お別れ会　３月７日

３年　球技大会　３月７日

３年　茶道教室　３月８日

３年　エーザイによる講和３月７日

１年　球技大会３月８日

３年 救急救命３月１１日

３年　校外学習 横浜・八景島シーパラダイス　３月１３日

３年　百人一首　３月１５日